



まずはじめに、2024年度のIHI原動機環境報告書をお読みいただき、心から感謝申し上げます。私たちの組織が持続可能な社会を形成するためにどのような活動をしているか、そして環境に対して我々がどのような影響を与えているかを公表する事は、我々の責任であり、義務であり、我々の誇りでもあると考えています。

2023年の日本経済を取り巻く環境は、ロシア・ウクライナ戦争の長期化や、欧州経済の低迷だけでなく、米国経済がもたらす大幅な円安の進行等の影響を受け、雇用の拡大や賃金の上昇をもたらしたものの、設備投資の大幅な拡大までは至らない状況となっています。

その中でIHI原動機(IPS)は、社会と地球に対する責任を忘れることなく、日々すべきことを粛々と続け、脱炭素社会に向けた取り組みを進めてきました。

この報告書を通じて、私たちの組織がどのように環境問題に対処しているか、そして今後どのような取り組みを進めていくのかをご理解いただければ幸いです。私たちはこれからも皆様と共に持続可能な社会を目指して前進していきます。

昨年末にアラブ首長国連邦のドバイで国連の気候変動会議(COP28)が開催され、全世界の気候変動問題に対する緩和野心の向上と、各国行動の加速化を目指し、自然に基づく気候変動対策(NCS)、低炭素農業への移行、そして人権に基づく自然保護アプローチが、パリ協定の目標実現において重要な役割を果たすことが強調されました。

COP28で最も注目すべき成果は、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5℃の温暖化抑制目標の実現に向けたエネルギーに関する合意です。具体的には、化石燃料からの「脱却」、2030年までに再生可能エネルギーの容量を3倍にし、かつエネルギー効率改善率を2倍にするというものです。

世界が直面する気候危機への対応時間は限られており、日本としても、そして我々企業としても大きな役割が求められており、達成に向けて気候変動対策を加速させていかなければなりません。これからの道のりは容易ではありませんが、私たちは社会の変革に対応し、持続可能な未来を実現するために、一丸となって取り組んでいきます。

IHIグループは「技術をもって社会の発展に貢献する」、「人材こそが最大かつ唯一の財産である」との経営理念のもとに、地球的課題を意識し、信頼を得ることによって地球と人類に豊かさや安全・安心を

提供するグローバルな企業グループを目指しています。

IPSにおいては、温室効果ガス(GHG)の排出量ゼロを目指す動力・エネルギーシステムと、デジタル技術を駆使したスマート運用サービスで、お客さまの事業に「安全、安心、快適さ」を提供し、お客さまの事業を通してカーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

具体的には、アンモニアやバイオ燃料等への燃料転換と電動化の推進を軸に、CO2削減を図るというものです。昨年は、アンモニア燃料タグボート向けエンジンが実機試験で所定の性能を達成し、さらに、電気推進タグボートやバイオマス輸送EV船の就航、バイオ燃料への対応などカーボンニュートラルに向けて大きく前進しました。

今年は、アンモニア燃料タグボートが就航し、アンモニアガスタービン発電設備が稼働を開始します。さらに陸用レシプロエンジンのアンモニア燃料対応の開発にも着手してカーボンニュートラルへの取り組みを加速させ、クリーンで経済的なエネルギーソリューションを具現化する製品・サービスを提供していきます。

また、自社工場においても太陽光発電設備の導入に加えて試運転設備に回生ブレーキの導入を開始するなどGHG削減に継続して取り組んでおり、今後も生産・製品試験運転をはじめとする事業活動でのカーボンニュートラル化を積極的に進めていきます。

「当たり前を覆す-IHIグループの『変革』開始」をスローガンとし、事業活動の全てにおいて継続的に事業パフォーマンスの向上を図るとともに、コンプライアンスを遵守し、ステークホルダーの皆様、そして、地域社会や国際社会からの期待に応え、IHIグループが目指す「自然と技術が調和する社会の創出」のために私たちがなすべきことを自ら実践し、将来にわたって企業としての存在価値を高めることに努めます。

今後とも弊社の活動に対しまして、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

株式会社IHI原動機
代表取締役社長 村角 敬